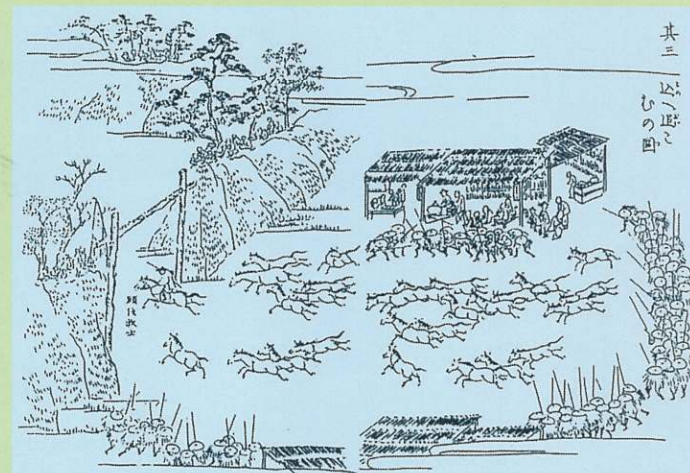


国史跡

しもうさこがねなかのまきあと
下総小金中野牧跡



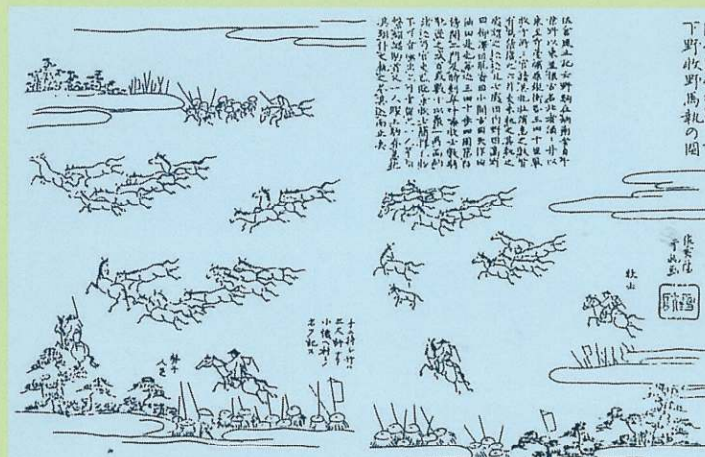
下野牧野馬捕りの図(3) (『成田名所図会』)



下野牧野馬捕りの図(4) (『成田名所図会』)

勇壮な野馬捕りの様子は名所図会に描かれ、江戸からも多くの見物客が訪れる年中行事でした。

[この絵図(成田名所図会)は下野牧の様子が描かれたものです。]



下野牧野馬捕りの図(1) (『成田名所図会』)



下野牧野馬捕りの図(2) (『成田名所図会』)

鎌ケ谷市教育委員会 文化スポーツ振興課 文化係
047-445-1141 (内線488)

鎌ケ谷市新鎌ケ谷2-6-1
bunka@city.kamagaya.chiba.jp

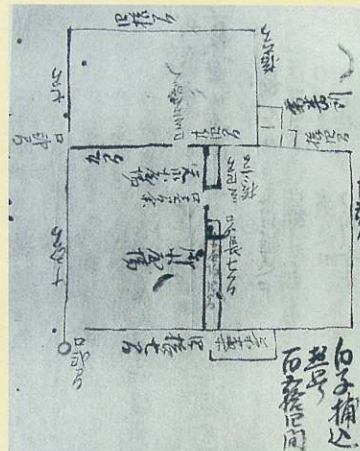
しもうさこがねなかのまきあと

下総小金中野牧跡は、江戸幕府が全国支配を継続する一環として軍馬を安定的に確保するために設けた小金牧の一つです。

中野牧は慶長年間(1596～1615)に設置され、明治維新で廃止されるまで存続しました。

「捕込」は牧内に野放し飼いにされ、半ば野生状態であった「野馬」を年に1回集めて、捕獲選別する「野馬捕り」を行った施設です。「野馬土手」は野馬捕りを効率的に行う「勢子土手」と野馬が牧外に出て、畑の農作物を食い荒らすなどの被害を防ぐため築かれた「野馬除土手」の総称で、これらは牧を構成する施設です。

「捕込」は元文年間(1736～1741)に3区画になったと伝えられており、約7,000㎡の規模であったと推定されています。牧を管理する「牧士」を代々務めた家には捕込が3区画で描かれた見取図が残っていました。現在はそのうちの1区画(払込)が往時の形態を保持しています。



中野牧捕込 (三橋力家旧蔵文書「御用書留」より、寛政11年(1799))

2区画についても当時の捕込の様子を推定できます。

捕込から東方約2kmの初富小学校校庭西側に所在する野馬土手は享保期以降には存在が確認されている勢子土手で、現存する長さは172mあります。

江戸幕府の軍勢力を支えた軍馬生産を知るうえで貴重な遺跡のため、平成19年2月6日、牧関連としては初の国史跡に指定されました。